

夏に大活躍の「ひんやりグッズ」。その実力は？

暑い夏を乗りきるのに欠かせない「ひんやりグッズ」。スプレータイプやスカーフタイプなどいろいろな商品が登場しています。そこで、どの商品がどれくらいの時間冷却できるのか、その実力をフジテレビ商品研究所にて実験しました

どのくらいの時間、冷却できるのか計測しました

商品を説明書に従って塗布または装着し、時間による皮膚の表面温度の変化を計測 ※サーモグラフィで撮影した画像は、赤色→黄色→緑色→青色になるにつれ、温度が低くなったことを示します

クールオン持続型冷却スプレー

ハンカチやタオルなどに約2秒間スプレーし、冷やしたい部位に当てるだけ。使用前に缶をよく振り、布地から5cmほど離して噴射する

220ml ¥893 (興和)



ひんやりシャツシャワー

ワキや背中、袖元など、衣類の汗をかきやすい部分に1、2回スプレーすればOK。ミント&グレープフルーツのさわやかな香り

500ml ¥1260 (ときわ商會)



しろくまのきもち

水に約3~5分浸してふくませ、タオルなどで表面の水を軽くふいて首に巻くスカーフタイプ。水洗いして繰り返し使えるから経済的
幅4×長さ72cm ¥700 (ビッグウイング)



どこでもアイスノン冷感ボディジェル

適量を手にとり、首すじや腕、脚などにのぼすようになじませるだけで簡単に冷却できるボディジェル。清涼感のあるスペアミントの香り
65g ¥609 (白元)



冷却前

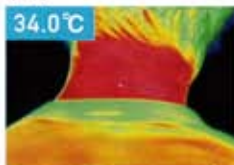
〈ひじの内側〉



〈肩〉



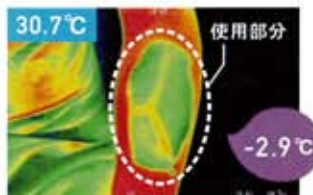
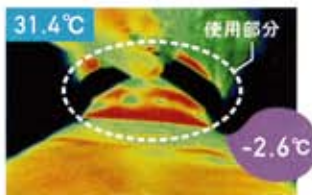
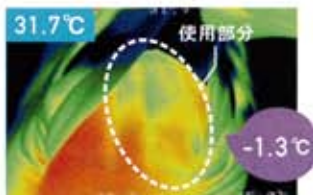
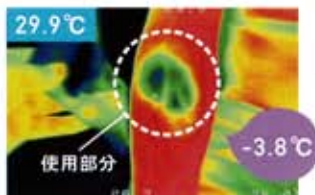
〈首〉



〈ひじの内側〉



冷却直後



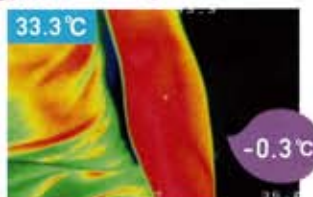
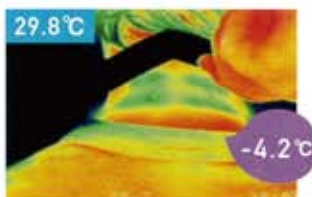
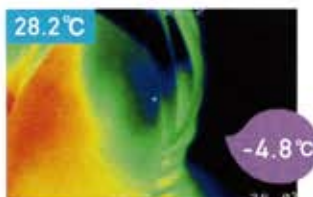
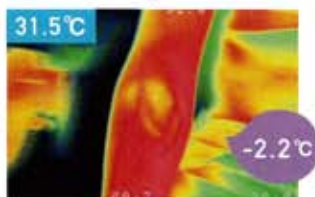
タオルに噴射し、ひじの内側に当てて冷却。スプレー直後に一気に3.8°C下がり、寒くなるくらいの冷たさ

シャツの肩部分に噴射。じんわりと肌が冷え、ちょうどよい冷涼感。広範囲が冷たくなった

スカーフとの接触部分のみ冷却され、心地よいひんやり感。ベタつかずサラサラした印象

一気に冷却され、温度が2.9°C低下。クールオン持続型冷却スプレーに次ぐかなり強い冷たさ

20分後



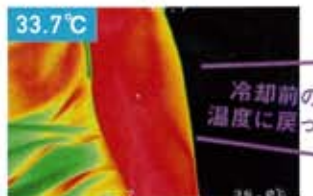
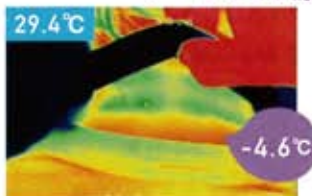
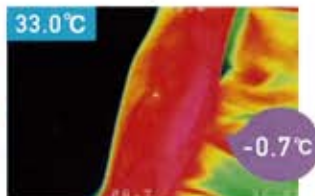
冷却直後からじわじわと温度が上昇。ひんやり感は弱まったが、中心部分は気持ちいいくらいの冷たさ

ゆるやかに温度が下がり、冷却前に比べ、4.8°C低下。さらにひんやり感がアップし、キンキンの冷たさ

さらに冷却され、20分後に4.2°C低下。30分後には4.9°C下がり29.1°Cと、4つのなかでいちばん温度が下がった

10分後はひんやり冷たかったが、20分後には33.3°Cとわずかに冷たさを感じる程度。冷却時間は短い結果に

60分後



さらに温度が上がり、60分で33.0°C、70分で冷却前の温度を超える33.8°Cに推移

30分後から温度が上がり始めたが、60分後も気持ちいい冷たさ。90分後でも31.9°Cと長時間冷却効果あり

30分以降徐々に冷たさは弱まったが、ぬるいレベルではない。90分後も30°Cとひんやり感がかなり続いた

20分以降徐々に温度が上がり、30分後には冷却前の温度に戻り、60分後には冷たさを感じられなかった

60分持続

90分持続

商品によって、温度低下の推移に差があることがわかった。どれも冷却効果は持続したが、「ひんやりシャツシャワー」と「しろくまのきもち」は約90分と長時間ひんやり感が持続することがわかった

結果!

約90分と長時間ひんやり感が持続するものも。用途によって商品を手順に使い分けて